

## 薬局薬剤師の高度薬学管理機能の発揮 -外来化学療法カンファレンスへの参加を通じて-

白戸 達介<sup>1)</sup>

### 1) 株式会社アインファーマシーズ アイン薬局 行田店

2015年10月厚生労働省策定の「患者のための薬局ビジョン」で薬局薬剤師に求められる高度薬学管理機能の発揮では、薬局薬剤師の質的向上はもちろん、薬薬連携の強化が必要となる。当薬局では、主応需医療機関の外来化学療法患者を対象とした週次カンファレンス(ケモカンファ)に参加し、その情報を基に服薬指導を行うだけでなく、薬局にて聴取した内容から有害事象のグレードを評価し、主応需医療機関へ情報提供や支持療法の提案、薬剤の減薬提案等を行っている。ケモカンファは、医師、病院薬剤師、看護師、緩和担当と当薬局の薬剤師といった多職種によって患者をフォローしている。

当薬局薬剤師が参加した経緯は、主応需医療機関の薬剤部長より依頼があり、支持療法の制吐剤等の処方漏れを防止するためであった。数年前から薬剤師1名が参加していたが、当初はケモカンファで得た情報の有効活用や薬局で聴取した患者情報の共有ができていなかった。そこで何が足りないかを考え、薬局で聴取した情報をケモカンファの場で共有したところ、患者の有害事象を改善する結果が得られた。その事例から薬局薬剤師が高度薬学管理に理解を深め、ケモカンファで質の高い情報提供をすることが必要と感じた。その後、薬局で得た情報をケモカンファで活用するための方法や、高度薬学管理を発揮するための知識向上対策を医療機関とも話し合い、ケモカンファを通じてさらに介入できるように取り組んでいる。

薬局薬剤師が介入する過程で、ケモカンファ参加の有無によって外来化学療法に対して薬剤師間で理解の差がみられた。改善策として、定期的な化学療法に関する局内勉強会を開催し薬剤師間での知識向上による均てん化を図った。副作用等に対する評価においても統一できていなかったため、有害事象共通用語規準(CTCAE)グレード評価についての勉強会や評価ツールを作成し他職種にわかりやすく情報提供を行う方法を検討した。トレーシングレポートの記載方法については病院薬剤師にも相談し、内容を文章として記載する他に、有害事象を箇条書きにし、CTCAEグレード評価で記載することとした。結果、評価の質や情報提供の質が高まり、他職種とも共通の情報を基に患者の外来化学療法に介入できた。

薬局での高度薬学管理体制を整備、強化した結果を検討するために、2017年9月から2018年10月の期間において、保険薬局が介入することで有害事象が改善した事例を集計したところ、21件確認することができ、うち8件でCTCAEのグレードが改善した。

現在では、高度薬学管理機能をより強化するために、薬剤部の化学療法担当者と薬局とのホットラインを構築し、連携の強化を図っている。また、薬局にて患者への化学療法後の症状についての電話によるモニタリングを行い、有害事象の早期発見に努めている。すでに電話モニタリングにより、前回まで発症していなかった下痢の有害事象を聴取し情報提供する等、サポート事例は増えている。また、当薬局の取り組みを参考に、他店でもケモカンファへの参加が新たに始まっている。

今後、地域包括ケアシステムの一翼として保険薬局が外来化学療法に貢献していくにあたり、薬局薬剤師もケモカンファに積極的に参加することが求められてくる。そのためにも高度薬学管理の知識を磨き、薬局外での活用にも力を入れていくことが必要だと考える。それに際し今回の発表が一助となれば幸いである。

(第13回日本薬局学会(2019年10月,神戸)にて発表)